

松山南高校「チャレンジリサーチ（C R）」自己評価用ルーブリック（プロセス評価）

下表は、C Rに対する自身の取組を現時点で振り返り、自己評価するための評価基準です。

各観点について、**評価3の記載内容を高校生として標準的なレベル**とします。

ルーブリックを参照しながら自身の取組を振り返り、各項目について4、3、2いずれかの評価をしてください。

なお、特に達成度の高い項目（0～2項目）と特に達成度の低い項目（0～2項目）については、それぞれ5、1と評価してもよい。

ゴシック…3を基準としたときの主な
相違点・評価ポイント
コメント欄には、活動を振り返っての反省や
感想、今後の抱負を記入しよう。

評価 評価の観点	（5～） 4	3	2（～1）	自己 評価
	標準的なレベル（3）を越えて達成できた	標準的なレベル（3）をおおむね達成できた	標準的なレベル（3）を達成したとはいえない	
先行研究	研究テーマに関連する 専門書や学術論文を含めて 丹念に調べることができた。かつ、文献リストを作成した。	研究テーマに必要な 初歩的な文献や資料を調べる ことができた。かつ、文献リストを作成した。	Webサイト上の情報収集にとどまった。または、 文献リストを作成していない 。	
課題意識と 発展性	学術的・社会的な課題意識を反映した リサーチクエスト と 仮説 を設定し、仮説の検証や課題解決のための提案など 何を明らかにしたいか明確 である。	学術的・社会的な課題意識をもち、 調査・実験可能なテーマを設定している 。	学術的・社会的な課題意識から考えたというよりも 表面的な発想からテーマを設定した 。	
計画・準備と 実施状況	主体的かつ定期的に 担当教員に相談・報告しながら取り組み、おおむね計画通りに進めることができた。	月に2回程度担当教員に計画・方法・結果分析などを 相談・報告しながら取り組み、おおむね計画通りに進める ことができた。	担当教員に 相談・報告をほとんどしなかったり、場当たり的な取組 で、C Rの時間を活用できなかったりした。	
研究方法の 妥当性	目的を達成するために、 客観性が高く現実性のある 調査・実験方法を具体的に考えることができた。	目的に照らして 調査・実験方法を検討しているが、客観性の確保などの点で再考の余地がある 。	調査・実験方法を考えてはいるが、 目的を達成するには不十分であった 。	
好奇心・興味関心・探究心	高い課題意識で研究を進め、研究テーマについて 仮説・検証をくり返し ながら深く探究することができた。	研究を進めるにつれて 興味を抱く事柄を発見 することができたため、関心をもって研究テーマに取り組むことができた。	研究を進める中であまり興味を抱く事柄を発見することができなかったため、 進んで研究テーマを深めるところまでいかなかった 。	
創意工夫・ オリジナリティ	先行研究との相違点を明確にしつつ 、独自の手法に挑戦したり、自分なりに実験・調査結果を考察したりできた。	手法を工夫したり、自分なりに 実験・調査結果を考察 したりしたが、先行研究との相違点はやや不明瞭だった	手法に工夫が見られなかったり、実験・調査結果の 自分なりの考察が不十分で先行研究の引用にとどまったりした 。	
役割分担と 協力	自分の役割を十分果たすとともに、建設的な意見を出すなど、 グループ研究に貢献 することができた。	自分の役割は おおむね果たしてきたが、他のメンバーへの貢献は十分ではなかった 。	自分の役割を果たせず、グループの他のメンバーに頼りきりであった 。	
コメント				

愛媛大学課題研究評価ルーブリック（簡易バージョン）Ver1.0 を一部改変(2019.5)

班名

年 組 番 氏名

評価日 月 日